

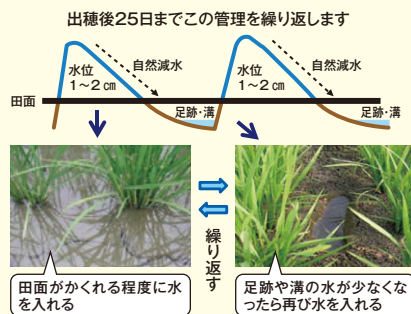
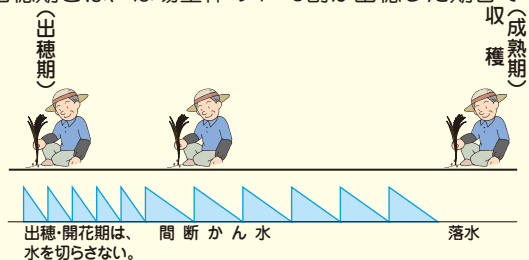
お米は大切な商品です

～適切な水管理・被害粒等の混入防止と適期刈取で全量1等米を!～

登熟を高める水管理

- 出穂期は、こまめな間断かん水とし、その後、徐々にかん水間隔を伸ばしましょう。
- 出穂後は、間断かん水を基本とし、異常高温時には夕方から夜間のかん水により、地温を低下させましょう。
- 落水時期は、出穂後30日以降とし、その後も高温・多照が続く場合は、ほ場条件を考慮し、収穫7～10日前まで走り水を実施しましょう。

※出穂期とは、ほ場全体の4～5割が出穂した期日です。



水管理のポイント

出穂後25日間（高温年は30日間）は「湿った田面」を継続します！

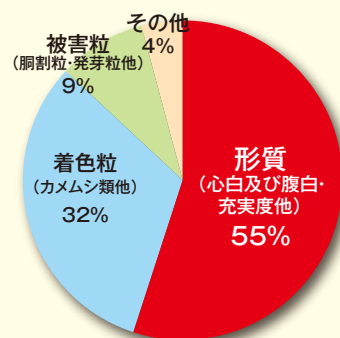
イネカメムシ対策

- 出穂期に不稔粒発生防止のため薬剤散布を実施しましょう。
- 出穂期の7～10日後に着色粒（斑点米）防止のための薬剤散布を実施しましょう。

斑点米カメムシ対策

- 地域全体で休耕地や畦畔などの除草を出穂2～3週間前と出穂期頃の2回行い、斑点米カメムシ類の水田への侵入を低減しましょう。
- 出穂2～3週間前と出穂期頃の除草ができない場合は、出穂期の10日前までには除草しましょう。
- 本田においては、粒剤ならば出穂期～出穂期7日後までに、液剤ならば乳熟期初期（出穂期7～10日後）までに防除しましょう。

令和7年産水稻うるち玄米の2等以下に格付けされた主な理由
（令和8年3月末/栃木県）



稲こうじ病対策

- 前年多発した地域では、出穂10日前までに防除
・ ほ場での稲こうじの発生状況を把握しておきましょう。
- 防除のポイントは本田での薬剤防除
・ 銅剤（ドイツボルドーA・Zボルドー粉剤DL等）であれば出穂20～10日前に散布
・ シメコナゾール剤（モンガリット粒剤等）であれば田植直後もしくは出穂21～14日前に散布



図 イネ稲こうじ病の伝染経路

「胴割粒」等を減らすための刈取適期の目安（裏面参照）

地域別刈取適期の目安（早植コシヒカリ）

出穂後日数の目安……38～46日

- 帯緑色率が10%から始め3%までに終了しましょう。
- 登熟積算気温は、1,000～1,100℃です。
- 高温年は、収穫開始が早まるので刈遅れに注意しましょう。

	8月	9月		10月	
	下旬	上旬	中旬	下旬	
県南		←→			
県中		←→	←→		
県北			←→	←→	

気象が平年並みの場合の早植コシヒカリの地域別刈取適期の目安です。

この時期には
刈取準備を
しましょう

刈取適期

ここまでが
刈取適期



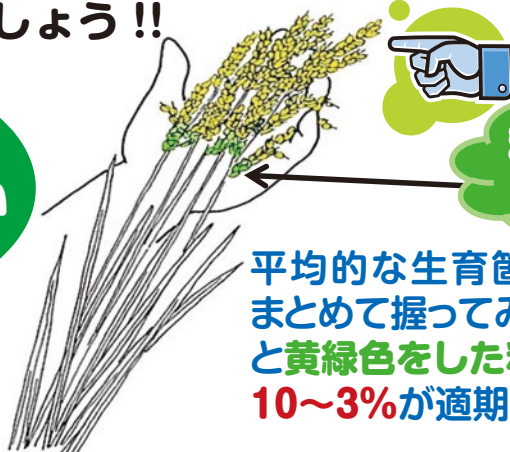
帯緑色 粳率	15%	10%	3%
出穂後 日数	35 日	38 日	46 日

★刈取適期の目安は、帯緑色粳率で10～3%★

穂の下の方に残っている **黄緑色の粳（帯緑色粳）** の割合を見て判断しましょう！！



黄緑色の粳
を見てほしい
まる～



穂の下の方は
黄緑色

平均的な生育箇所の 5～6 本の穂を
まとめて握ってみる。下の方でうっすら
と黄緑色をした粳の割合で判断する。
10～3%が適期（不稔粳は含めない）

（参考：「安心イネつくり」P.82（農文協））

適期刈取した玄米と
早刈り及び刈遅れの
玄米写真



早刈り（未熟が多い）



適 期（胴割無く、光沢良）



刈遅れ（胴割・茶米多い）

大規模経営等で刈遅れないために

- 適期に刈り始めたのでは、後半刈遅れになります。早めに刈取を開始するなど計画的な刈取をしましょう。
- コシヒカリ以外の品種等の導入により作期が分散し、適期刈取が可能となります。